

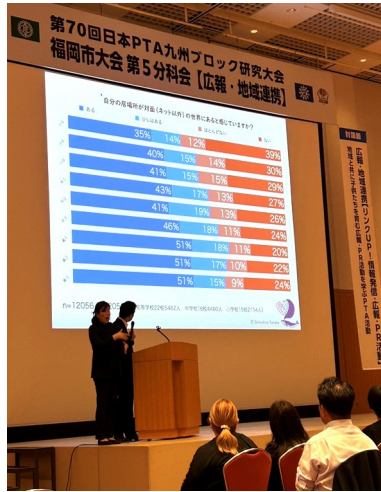
▼日本PTA九州ブロック研究大会レポート

第七〇回日本PTA九州ブロック研究大会福岡市大会
第5分科会「地域と共に子供たちを育む広報」

PR活動を学ぶPTA活動

講師 熊本市立出水南中学校 田中慎一朗校長

熊本市立出水南中学校 田中慎一朗校長先生による「こともまんなか社会における学校とPTAの役割」という講演は、長年いじめや不登校、こどものインターネット利用についての問題に取り組まれている観点からのお話でした。



田中校長先生は、現代の子どもたちは「孤立」している課題がある、と指摘された。また、保護者においても「孤立」している問題があるといわれました。

昨今はどうしてもPTAが疑問視されがちだが、本来は「保護者と教職員が協力して活動する」会です。家庭と学校の連携はとても重要であり、子どもは親の所有物ではなく、社会全体で育てる「私たちの子ども (Our children)」という意識を、PTAと学校が共有することが大切である。そのための機能を3つ紹介されました。

- ・ 共助機能：子育ての葛藤を分かり合う。
- ・ 監督機能：子どもたちの「困りごと」に対して、意見を述べる（親の意見）。
- ・ 教育機能：PTA主催で、学校だけでは実現できない貴重な体験の提供（伝統・技術体験、講話等）。

確かに、気薄になってきている地域との交流も、またPTAにとって大事なことだと私は思っています。学校、家庭、地域を「繋ぐ活動」ができるのも、PTAの強みであるのだから、その活動を子ども達に見せて、体験させて安心安全な社会で自分たちは見守られているから大丈夫、と自信を持つ

てほしいのです。孤立する子どもや保護者が一人でも少なくなり、相談できる場所に気がついていただけたら、と切に願います。

武蔵ヶ丘中学校PTA副会長 上田良子

★受賞おめでとうございます★



第七〇回日本PTA九州ブロック研究大会福岡市大会にて、菊陽町立武蔵ヶ丘中学校PTA副会長の上田良子さん（写真右）、前菊池都市PTA連絡協議会会長の前村悠樹さん（写真左）、前熊本県PTA連合会会長の山口法子さん（写真中央）が受賞されました。

▼第七十三回日本PTA全国研究大会レポート

能登の教訓から学ぶPTAが地域と築く

「命の防波堤」と新たな役割

「PTAが子どもたちの安全と

学びを支える役割とは」

先日、石川県で開催された第七十三回日本PTA全国研究

大会は、この問いに向き合う場となりました。能登の教訓を踏まえ、私たちPTAが今、子どもたちの安全と未来のために何をすべきかを考えさせられました。

大会初日、分科会で基調講演に立った輪島市教育長の小川正先生は、想定外の地震で初動が困難だった

実態や、日頃の防災訓練により中学生が避難所運営を支えた事例を紹介しました。先生は、「顔の見える関係」が災害時の力になると強調。この教訓に基づき、地域から誰一人として犠牲者を出さない「心の防波堤」を築く防災教育の推進、そしてPTAが学校・地域・行政と連携し、避難訓練や避難所運営訓練を一体で行う重要性が提言されました。

一日目の全体会では、浅野大介副知事が、教育DXと「能登の創造的復興」について講演。奥能登を丸ごと「学校」と見立て、地域連携やオンラインを活用し「先生や先輩」を連れてくる「未来の地球学校プロジェクト」を紹介しました。地域の文化やPTAの人脈が、未来の学びを広げる鍵となることが示されました。

本大会は、能登の教訓を踏まえ、PTAが子どもたちの安全と、未来の学びを支えるという「新たな役割」を再確認する機会となりました。私たち武蔵ヶ丘中学校PTAでも、県PTA連合会の委嘱金を活用し、学校の図書室に、防災図書コーナーを設置しました。みんなで、命を守るための学びを深め、防災への意識を共有しています。

武蔵ヶ丘中学校PTA副会長 池裕子



オープニングアトラクションの鶏浦太鼓